

平成21年1月吉日

会員各位

関東・東北ブロックリーダー 大島 武  
第36回 研究会実行委員長 高橋 眞知子

日本ビジネス実務学会  
第36回 関東・東北ブロック研究会のご案内

明けましておめでとうございます。昨年はお世話になりありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、第36回関東・東北ブロック研究会の開催を下記のとおりご案内いたします。

学会の統一テーマは「ビジネス実務教育と人材育成 - 自立性を高めるための教育プログラム -」です。本研究会プログラムは、現在どの分野においても必要不可欠の能力として最も求められているコミュニケーション能力の育成についての講演（桜美林大学 教授 荒木晶子先生）と今回初めての企画である「学生プレゼンテーション発表会」と3つの個人研究発表と共同研究発表が一つ、から構成されております。

なお、ご出席の皆様には、共同研究の成果である「聴く力向上トレーニング」(指導書つき)教材を無料で持ち帰りいただきます。

ご多忙の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ぜひご出席くださいますよう、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成21年2月15日(日) 10:00~16:45
2. 場 所 鶴見大学会館 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 (JR鶴見駅西口徒歩1分)
3. 参加申込 **会費の振込をもって参加申込といたします。**  
**振込期限 2月3日(火)必着：振込確認に日数を要しますのでご注意ください。**
4. 会費振込

金額

種別	会員(事前振込み)	左記以外、非会員	学生
会費	4,000円	5,000円	2,000円
昼食	800円	800円	800円
懇親会	3,000円	3,000円	3,000円

**\*昼食は事前振込に限りご用意いたします。**

払込方法：同封の振込用紙にて **2月2日(月)必着** でお振込ください。

**同封の振込用紙の通信欄に住所、氏名、所属、金額内訳をご明記下さい。**

**振込手数料(郵便局ATMの場合は80円、窓口の場合は120円)はご負担下さい。**

振込先：郵便振替口座 00140-0-281463

名称は実行委員長個人名(高橋眞知子)になっております。

**申込終了後の取り消しには応じかねますので、予めご了承ください。**

以上

# 日本ビジネス実務学会

## 第36回 関東・東北ブロック研究会プログラム

統一テーマ

「ビジネス実務教育と人材育成」  
- 自立性を高めるための教育プログラム -

開催日：平成21年2月15日(日)

開催場所：鶴見大学会館

当番校：常磐短期大学

協力校：鶴見大学

時間	内 容	場 所	
9:30~	受 付		
10:00~ 10:05	挨拶・スケジュール説明 実行委員長 高橋 眞知子 総合司会 西村 この実	サブホール	
10:05~ 10:20	関東・東北ブロック研究会総会 ブロックリーダー 大島 武/サブリーダー 岡田 小夜子		
10:20~ 10:30	2008年度、2009年度共同研究について サブリーダー(共同研究担当)坪井 明彦		
10:30~ 11:50	基調講演 桜美林大学 教授 荒木 晶子 先生 テーマ「日本人のコミュニケーション能力を伸ばすためにできること」 司会 高橋 眞知子		
11:50~ 13:10	昼 食 (80分 弁当：事前申込者のみ)	204 研修室 運営委員は第1会議室	
13:10~ 14:40 発表5分/人	学生プレゼンテーション発表会(90分) 司会 岡田 小夜子 審査委員長 大宮 登(高崎経済大学) 審査委員 佐藤 啓子(目白大学短期大学部) 北垣 日出子(日本橋大学) 牛島 倫子(鶴見大学)	サブホール	
14:40~ 15:10	休 憩 (30分)		
15:10~ 15:40	学生プレゼンテーション発表会 結果発表・表彰式 *表彰式終了後 写真撮影 司会 岡田 小夜子	サブホール	
共 同 研 究 発 表			
15:40~ 16:10 発表20分 質疑応答10分	「コミュニケーション教育に関する研究 - 聴く力向上トレーニング -」 代表 岡田 小夜子 (高崎商科大学短期大学部) 三村善美(福岡学院大学短期大学部) 石井典子(東京経営短期大学) 島田幸恵(湘南短期大学) 飯塚順一(湘北短期大学) 寺村絵里子(国際短期大学)	サブホール	
移 動 (5分)			
16:15~ 16:45 発表20分 質疑応答10分	個 人 研 究 発 表		
	第1会場 司会：山口 憲二	第2会場 司会：大宮 智江	第3会場 司会：飯塚 順一
	「eラーニングにおける 第三者著作物の留意点」 島田 幸恵 (湘南短期大学)	「企業におけるコミュニ ケーション機会創出の試み」 広瀬 恵子 (三井物産株式会社)	「メンタルヘルスの取組み T社の事例」 古閑 博美 (嘉悦大学短期大学部)
	サブホール	202 研修室	203 研修室
17:15~ 18:45	懇 親 会	別会場	

## 関東・東北ブロック学生プレゼンテーション発表会実施要領

1. 日時：平成21年2月15日(日)13時10分~14時40分

2. 場所：鶴見大学会館サブホール

3. 発表者

	学校名	学生	タイトル	指導教員
1	山形短期大学総合文化学科2年	阿部美里	私のお薦め 朗読のススメ	阿部康子
2	常磐短期大学キャリア教養学科1年	齋藤菜苗	私のお薦め アロマセラピー	高橋真知子
3	湘北短期大学総合ビジネス学科2年	林 綾音	私のお薦め 生活文化としての書道	飯塚順一
4	湘北短期大学総合ビジネス学科2年	三島まどか	私のお薦め 和の心「お香」	飯塚順一
5	自由が丘産能短期大学 ビジネスマネジメントコース2年	大束麻衣	私のお薦め おさぼり読書	菅井郁
6	カリタス女子短期大学 言語文化学科2年	中澤真央	私のお薦め 本当に喜ばれるホスピ タリティ	北川宣子
7	多摩大学 グローバルスタディーズ学部2年	黒木美姫	私のお薦め SUSHI	佐藤美津子
8	多摩大学 グローバルスタディーズ学部2年	石森啓太	私のお薦め フランスの教育	佐藤美津子
9	川口短期大学 ビジネスキャリア開発学科2年	三村明日香	私のお薦め 三谷幸喜の舞台「12人 の優しい日本人」	大宮智江

発表の順番は、当日くじ引きで決定します。

4. 審査委員：

大宮登（高崎経済大学）、佐藤啓子（目白大学短期大学部）、北垣日出子（日本橋学館大学）、牛島倫子（鶴見大学）

5. 司会者：岡田小夜子（高崎商科大学短期大学部）

6. 審査方法

(1)審査項目・・・「内容」「構成力」「表現力（言語）」「表現力（非言語）」「スライド作成と操作」

(2)審査方法・・・5つの審査項目について、4名の審査委員それぞれが4点満点で評価します。審査委員4名の合計得点に、会場審査の得点（1位20点、2位15点、3位10点、4位5点）を加え判定します。

# 基調講演：「日本人のコミュニケーション能力を伸ばすためにできること」

1. 講演者 桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授 荒木 晶子 先生

## 2. プロフィール

日本の異文化コミュニケーションおよびスピーチコミュニケーションの創成期を築かれ、研究者であるとともに、学生から社会人にいたるまで、広く日本人のコミュニケーション能力育成にご尽力、ご活躍されている。

## 3. 略歴

サンフランシスコ州立大学大学院修了修士号取得（異文化コミュニケーション）、スタンフォード大学教育学部客員研究員。

1982年に帰国後、NHKの国際放送「ラジオジャパン」勤務。外資系企業及び日本企業で異文化研修も担当。「異文化コミュニケーション学会：SIETAR Japan（1986年）」創立メンバーであり、1987年からは、毎年、海外から異文化コミュニケーションの分野の専門家を日本に招聘し、「専門家のための異文化コミュニケーション・セミナー」を開催、今年で21年を迎える。1995年にアメリカの異文化コミュニケーション学会SIETAR International から異文化教育特別功労賞を受賞。1998年に、アジアで初めて行われたSIETAR International 世界大会（於：麗澤大学）の大会委員長を務める。

1990年から桜美林大学に勤務、現在にいたる。担当科目：コミュニケーション理論、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、異文化理解教育。

## 4. 著書

〔共著〕：『異文化へのストラテジー』（川島書店）、『異文化接触の心理学』（川島書店）、『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修学社）、『自己表現の教室』（情報センター・出版局）、『口語表現法ワークブック』（実教出版）、『自己表現の技法』（実教出版）他多数。

## 5. 講演内容

「コミュニケーションとは何か」の基本を踏まえた上で、「日本人のコミュニケーション能力を伸ばすためにできること」を主題として、日本の文化背景や、日本人に特徴的なコミュニケーション能力から、どのようにコミュニケーション能力を身につけさせるかを御講演いただく。

## 6. 配付資料

「言語 - 特集 大学生のための言語表現技法 - 」2008年3月号 大修館書店 より抜粋

\*\*\*\*\*

### 研究会にご出席の方に、もれなく教材を差し上げます

2008年度関東・東北ブロック共同研究に採択されたグループが以下の教材を開発いたしました。コミュニケーション教育の中でも「聴き方」に重点をおいたもので、実際に学生約200人に3ヶ月にわたってトレーニングした結果、「聴き方」にかなりの効果がでたものです。

学生のコミュニケーション力の低下が喧伝されている昨今、実効性のある教材として、ぜひ他の先生方にもお使いいただけたらという願いをこめて、研究会にご来場のすべての方に差し上げます。ぜひ、研究会にご出席ください。

## 1. 教材名：「聴く力向上トレーニング」(指導書つき)

## 2. 作成者：2008年度関東・東北ブロック共同研究 カテゴリーA グループ

テーマ「コミュニケーション教授法 学生の「聴き取り能力」向上のための教材開発」

岡田小夜子(高崎商科大学短期大学部)

三村善美(福島学院大学短期大学部)

石井典子(東京経営短期大学)

畠田幸恵(湘南短期大学)

飯塚順一(湘北短期大学)

寺村絵里子(国際短期大学)